

児童・生徒の現状・課題

これまでの指導を教員が振り返ると、生徒の課題として次の3つが挙げた。①学習意欲が高くないこと
②これまでの学習を振り返り、それを生かして次の学習に取り組むこと③他の考えを受容することが得意ではないこと



学び続ける力を育むための重点目標

- 学ぶことの見通しをもち、興味や関心をもって学習に取り組む。
- 協働や対話を通して、自己の考えを広げ深める。



児童生徒調査

肯定的回答の割合(%)	昨年度	目標 (12月)	結果 (1月)
① 自分から進んで計画を立てて学習している。	69.7%	85.0%	69.2%
② 他の人と考えを交流したり、協力して活動に取り組んだりすることは、自分の力をのばすのに役に立っている。	87.9%	95.0%	89.9%

教員調査

肯定的回答の割合(%)	昨年度	目標 (12月)	結果 (1月)
① 授業では、学習課題や学習過程など、生徒が学び方を選択する場面を設定している。	36.9%	90.0%	67.8%
② 授業では、他の人と考えを交流したり、協力して活動に取り組んだりする場面を設定し、生徒の思考を深めたり、広げたりできるようにしている。	15.8%	100.0%	82.1%

具体的な手だて①

生徒が学習するテーマや学習ツールなどを選択する場面を1単元の中で1つ以上設ける。

具体的な手だて②

指導案を熟慮した上で、学習内容や学習計画を単元のはじめに示し、見通しをもたせたり、学習内容のつながりを考えさせたりする。

具体的な手だて③

生徒が、他者の考えや自分の課題を知る機会を設ける。それを生かして自分の考えを深めるようにする。



校内で共有し、授業改革を日常化するための工夫

他の先生の授業観察を月に1回以上行い、良かった点を所定の書式に記録し、授業者に渡す。

全教員が、第2学期に任意の単元で「町田市スタンダード授業改革シート」のセルフチェックを3回行う。

総括(8月)

2025年の全国学力学習状況調査の結果では、「自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか？」の質問に肯定的な回答が平均より約3ポイント低かった。生徒が学習の目的を理解した上で、選択することを通して意欲を高め、他者とのかかわりの中で、学びを得ることができる生徒像を目標に描いた。

総括(1月)

昨年度と比較して、教員が積極的に授業に「生徒が選択する場面」や「対話や協働する場面」を設定することが増えたことがわかる。今後もこれらの場面を増やすことで、生徒が学習に対して興味や関心を育むことにつなげたい。また、生徒が計画的に学習できるようにするためにも選択の場面を多く経験することも必要である。